

基本計画書

基本計画									
事項	項目	記入欄					備考		
計画の区分		研究科の設置							
フリガナ	設置者	ガッコウホウジン リッキョウガクイン 学校法人 立教学院							
フリガナ	大学の名称	リッキョウガクイン 立教大学大学院（Rikkyo University Graduate School）							
大学の位置		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号							
大学の目的		キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めること。							
新設学部等の目的		<p>博士課程前期課程 スポーツウエルネス学及びそれを構成する様々な基礎的な学問により、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に積極的に貢献する高度な専門性を有し、超高齢社会を迎えた我が国において、心身のバランスを整え人々のウエルネス醸成に貢献し、人間関係や自然との関わりにおいて健全でバランス感覚を有した豊かな社会の構築に寄与する研究者及び高度専門職業人を養成する。</p> <p>博士課程後期課程 前期課程で取得したスポーツウエルネス学の高い専門能力と外国語文献の活用能力の上に、スポーツウエルネス学の分野において科学的論理性、倫理性、高度な専門性、独創性と自立性を伴った研究を実践するとともに、知の創造、価値の創造をリードできる研究者及び高度専門職業人を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部：スポーツウエルネス学部（令和4年6月設置届出予定） 14条特例の実施
	スポーツウエルネス学研究科（Graduate School of Sport and Wellness）	年	人	年次人	人		年月 第年次	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
	スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程（Master's Program of Sport and Wellness）	2	10	-	20	修士（スポーツウエルネス学）（Master of Arts in Sport and Wellness）	令和5年4月 第1年次 第2年次		
	スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程（Doctoral Program of Sport and Wellness）	3	5	-	15	博士（スポーツウエルネス学）（Doctor of Philosophy in Sport and Wellness）	令和5年4月 第1年次 第2年次 第3年次		
	計		15	-	35				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		<p>①令和4年3月 収容定員の変更に係る学則変更認可申請済。 コミュニティ福祉学部 福祉学科〔定員減〕（△24）（令和5年4月） コミュニティ政策学科〔定員増〕（66）（令和5年4月） スポーツウエルネス学科（廃止）（△110）（令和5年4月）</p> <p>②令和4年6月 設置届出予定 スポーツウエルネス学部 スポーツウエルネス学科（230）</p> <p>③令和4年6月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定。 経済学研究科 経済学専攻（D）〔定員減〕（△5）（令和5年4月） 法学研究科 法学政治学専攻（D）〔定員減〕（△2）（令和5年4月） コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻（M）〔定員減〕（△10）（令和5年4月） スポーツウエルネス学研究科 スポーツウエルネス学専攻（M）（10）（令和5年4月） スポーツウエルネス学専攻（D）（5）（令和5年4月）</p> <p>④令和5年4月 学生募集停止 コミュニティ福祉学部 スポーツウエルネス学科（廃止）（△110）</p>							

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
教育課程	ｽｽﾞｰツウエルネス学研究科 ｽｽﾞｰツウエルネス学専攻博士課程前期課程	21科目	3科目	0科目	24科目	30単位		
	ｽｽﾞｰツウエルネス学専攻博士課程後期課程	19科目	0科目	0科目	19科目	6単位		
教	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
既	ｽｽﾞｰツウエルネス学研究科	10	2	0	0	12	0	8
	ｽｽﾞｰツウエルネス学専攻(博士課程前期課程)	(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(8)
員	ｽｽﾞｰツウエルネス学研究科	10	2	0	0	12	0	7
	ｽｽﾞｰツウエルネス学専攻(博士課程後期課程)	(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(7)
組	計	10	2	0	0	12	0	-
		(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(-)
織	文学研究科	9	1	0	0	10	0	4
	英米文学専攻(博士課程前期課程)	(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(4)
織	英米文学専攻(博士課程後期課程)	9	1	0	0	10	0	0
		(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)
織	史学専攻(博士課程前期課程)	9	3	0	0	12	0	15
		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(15)
織	史学専攻(博士課程後期課程)	9	3	0	0	12	0	0
		(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)
織	教育学専攻(博士課程前期課程)	13	1	0	0	14	0	8
		(13)	(1)	(0)	(0)	(14)	(0)	(8)
織	教育学専攻(博士課程後期課程)	13	1	0	0	14	0	0
		(13)	(1)	(0)	(0)	(14)	(0)	(0)
織	日本文学専攻(博士課程前期課程)	7	1	0	1	9	0	5
		(7)	(1)	(0)	(1)	(9)	(0)	(5)
織	日本文学専攻(博士課程後期課程)	7	1	0	1	9	0	0
		(7)	(1)	(0)	(1)	(9)	(0)	(0)
織	フランス文学専攻(博士課程前期課程)	6	0	0	0	6	0	4
		(6)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(4)
織	フランス文学専攻(博士課程後期課程)	6	0	0	0	6	0	0
		(6)	(0)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)
織	ドイツ文学専攻(博士課程前期課程)	4	1	0	0	5	0	3
		(4)	(1)	(0)	(0)	(5)	(0)	(3)
織	ドイツ文学専攻(博士課程後期課程)	4	1	0	0	5	0	0
		(4)	(1)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)
織	比較文明学専攻(博士課程前期課程)	5	2	0	0	7	0	5
		(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(0)	(5)
織	比較文明学専攻(博士課程後期課程)	5	2	0	0	7	0	0
		(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)
織	超域文化学専攻(博士課程前期課程)	4	4	0	0	8	0	5
		(4)	(4)	(0)	(0)	(8)	(0)	(5)
織	超域文化学専攻(博士課程後期課程)	4	4	0	0	8	0	0
		(4)	(4)	(0)	(0)	(8)	(0)	(0)
織	経済学研究科	31	12	0	0	43	0	21
	経済学専攻(博士課程前期課程)	(31)	(12)	(0)	(0)	(43)	(0)	(21)
織	経済学専攻(博士課程後期課程)	26	1	0	0	27	0	0
		(26)	(1)	(0)	(0)	(27)	(0)	(0)
織	理学研究科	8	5	0	0	13	0	13
	物理学専攻(博士課程前期課程)	(8)	(5)	(0)	(0)	(13)	(0)	(13)
織	物理学専攻(博士課程後期課程)	8	5	0	0	13	0	0
		(8)	(5)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)
織	化学専攻(博士課程前期課程)	10	2	0	0	12	0	14
		(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(14)
織	化学専攻(博士課程後期課程)	10	2	0	0	12	0	0
		(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)
織	数学専攻(博士課程前期課程)	9	4	0	0	13	0	7
		(9)	(4)	(0)	(0)	(13)	(0)	(7)
織	数学専攻(博士課程後期課程)	9	4	0	0	13	0	0
		(9)	(4)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)
織	生命理学専攻(博士課程前期課程)	10	2	0	0	12	0	7
		(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(7)
織	生命理学専攻(博士課程後期課程)	10	2	0	0	12	0	0
		(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)

設 の 概 分 要	社会学研究科	24	4	0	1	29	0	18
	社会学専攻（博士課程前期課程）	(24)	(4)	(0)	(1)	(29)	(0)	(18)
	社会学専攻（博士課程後期課程）	24	4	0	1	29	0	0
		(24)	(4)	(0)	(1)	(29)	(0)	(0)
	法学研究科	30	9	0	0	39	0	6
	法学政治学専攻（博士課程前期課程）	(30)	(9)	(0)	(0)	(39)	(0)	(6)
	法学政治学専攻（博士課程後期課程）	30	9	0	0	39	0	0
		(30)	(9)	(0)	(0)	(39)	(0)	(0)
	観光学研究科	15	4	0	1	20	0	2
	観光学専攻（博士課程前期課程）	(15)	(4)	(0)	(1)	(20)	(0)	(2)
	観光学専攻（博士課程後期課程）	15	4	0	1	20	0	0
		(15)	(4)	(0)	(1)	(20)	(0)	(0)
	コミュニティ福祉学研究科	12	8	0	0	20	0	5
	コミュニティ福祉学専攻（博士課程前期課程）	(12)	(8)	(0)	(0)	(20)	(0)	(5)
	コミュニティ福祉学専攻（博士課程後期課程）	12	8	0	0	20	0	0
		(12)	(8)	(0)	(0)	(20)	(0)	(0)
	ビジネスデザイン研究科	17	3	0	1	21	0	37
	ビジネスデザイン専攻（博士課程前期課程）	(17)	(3)	(0)	(1)	(21)	(0)	(37)
	ビジネスデザイン専攻（博士課程後期課程）	11	2	0	0	13	0	0
		(11)	(2)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)
	21世紀社会デザイン研究科	8	2	0	1	11	0	36
	比較組織ネットワーク学専攻（博士課程前期課程）	(8)	(2)	(0)	(1)	(11)	(0)	(36)
	比較組織ネットワーク学専攻（博士課程後期課程）	8	2	0	1	11	0	0
		(8)	(2)	(0)	(1)	(11)	(0)	(0)
	異文化コミュニケーション研究科	19	6	0	0	25	0	21
	異文化コミュニケーション専攻（博士課程前期課程）	(19)	(6)	(0)	(0)	(25)	(0)	(21)
	異文化コミュニケーション専攻（博士課程後期課程）	19	6	0	0	25	0	0
		(19)	(6)	(0)	(0)	(25)	(0)	(0)
	経営学研究科	6	2	0	4	12	0	0
	経営学専攻（博士課程前期課程）	(6)	(2)	(0)	(4)	(12)	(0)	(0)
経営学専攻（博士課程後期課程）	11	4	0	0	15	0	1	
	(11)	(4)	(0)	(0)	(15)	(0)	(1)	
国際経営学専攻（博士課程前期課程）	6	6	0	3	15	0	41	
	(6)	(6)	(0)	(3)	(15)	(0)	(41)	
現代心理学研究科	5	2	0	0	7	0	6	
心理学専攻（博士課程前期課程）	(5)	(2)	(0)	(0)	(7)	(0)	(6)	
心理学専攻（博士課程後期課程）	5	1	0	0	6	0	0	
	(5)	(1)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)	
臨床心理学専攻（博士課程前期課程）	7	3	0	0	10	0	13	
	(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	(0)	(13)	
臨床心理学専攻（博士課程後期課程）	7	1	0	0	8	0	0	
	(7)	(1)	(0)	(0)	(8)	(0)	(0)	
映像身体学専攻（博士課程前期課程）	10	3	0	0	13	0	5	
	(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(5)	
映像身体学専攻（博士課程後期課程）	9	2	0	0	11	0	0	
	(9)	(2)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)	
キリスト教学研究科	8	2	0	0	10	0	14	
キリスト教学専攻（博士課程前期課程）	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(14)	
キリスト教学専攻（博士課程後期課程）	8	2	0	0	10	0	0	
	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)	
人工知能科学研究科	7	2	0	0	9	0	20	
人工知能科学専攻（博士課程前期課程）	(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(20)	
人工知能科学専攻（博士課程後期課程）	7	2	0	0	9	0	16	
	(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(16)	
前期課程合計	283	84	0	12	379	0	—	
	(283)	(84)	(0)	(12)	(379)	(0)	(—)	
後期課程合計	286	74	0	4	364	0	0	
	(286)	(74)	(0)	(4)	(364)	(0)	(0)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	255	人	195	人	450	人	
		(255)		(195)		(450)		
	技 術 職 員	24	人	1	人	25	人	
		(24)		(1)		(25)		
図 書 館 専 門 職 員	23	人	2	人	25	人		
	(23)		(2)		(25)			
そ の 他 の 職 員	0	人	0	人	0	人		
	(0)		(0)		(0)			
計	302	人	198	人	500	人		
	(302)		(198)		(500)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	116,820 m ²	0 m ²	0 m ²	116,820 m ²						
	運 動 場 用 地	125,853 m ²	0 m ²	0 m ²	125,853 m ²						
	小 計	242,673 m ²	0 m ²	0 m ²	242,673 m ²						
	そ の 他	16,234 m ²	0 m ²	0 m ²	16,234 m ²						
合 計	258,907 m ²	0 m ²	0 m ²	258,907 m ²							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	完成年度については、 新棟建設が未着工のため仮の数 値					
		183,096 m ² (176,796 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	183,096 m ² (176,796 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	143 室	157 室	69 室	21 室 (補助職員 人)	12 室 (補助職員 人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数							
		スポーツウエルネス学研究所		22 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不 能のため、大学全体の 数 電子ジャーナル及び学 術雑誌については、そ の大半が電子契約のみ 又は冊子契約（所蔵） のみとなっており、必 ずしも電子ジャーナル が学術雑誌の内数とな らないため、それぞれ 計上			
	スポーツウエルネス学研究所	2,027,717 [785,765] (2,102,761 [806,713])	21,051 [7,060] (21,051 [7,060])	66,845 [66,734] (66,845 [66,734])	64,126 (65,854)	968 (968)	0 (0)				
	計	2,027,717 [785,765] (2,102,761 [806,713])	21,051 [7,060] (21,051 [7,060])	66,845 [66,734] (66,845 [66,734])	64,126 (65,854)	968 (968)	0 (0)				
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		21,554.99 m ²		2,029	2,928,382						
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		13,450.03 m ²		ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ ストを含む）を 含む。	
		教員 1 人当り研究費等									
		博士課程前期課程		1,033千円	1,033千円	—	—	—	—		—
		博士課程後期課程		1,033千円	1,033千円	1,033千円	—	—	—		—
		共同研究費等									
		博士課程前期課程		15,186千円	15,186千円	—	—	—	—		—
		博士課程後期課程		15,186千円	15,186千円	15,186千円	—	—	—		—
		図書購入費									
		博士課程前期課程		661,319,000	661,319,000	—	—	—	—		—
		博士課程後期課程		661,319,000	661,319,000	661,319,000	—	—	—		—
		設備購入費									
		博士課程前期課程		202,991,000	202,991,000	—	—	—	—		—
	博士課程後期課程		202,991,000	202,991,000	202,991,000	—	—	—	—		
学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次					
博士課程前期課程	963千円	738千円	—千円	—千円	—千円	—千円					
博士課程後期課程	936.5千円	711.5千円	711.5千円	—千円	—千円	—千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等									
大 学 の 名 称		立教大学									
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
		年	人	年次 人	人		倍				
文学部							0.99		東京都豊島区西池 袋三丁目34番1号	令和4年度入学 定員増（1人） 令和4年度入学 定員増（1人） 令和4年度入学 定員増（1人）	
キリスト教学科		4	50	—	197	学士（文学）	0.94	昭和24 年度			
史学科		4	215	—	857	学士（文学）	0.96	昭和24 年度			
教育学科		4	101	—	401	学士（文学）	1.10	昭和37 年度			

文学科	4	552	—	2163	学士（文学） 学士（学術）	0.97	平成18年度		令和4年度入学定員増（15人）
経済学部						0.98		同上	
経済学科	4	332	—	1322	学士（経済学）	0.97	昭和24年度		令和4年度入学定員増（2人）
会計ファインズ学科	4	176	—	701	学士（経済学）	0.97	平成14年度		令和4年度入学定員増（1人）
経済政策学科	4	176	—	701	学士（経済学）	0.99	平成18年度		令和4年度入学定員増（1人）
理学部						0.98		同上	
数学科	4	66	—	264	学士（理学）	0.96	昭和24年度		
物理学科	4	77	—	308	学士（理学）	1.00	昭和24年度		
化学科	4	77	—	308	学士（理学）	1.00	昭和24年度		
生命理学科	4	72	—	288	学士（理学）	0.97	平成14年度		
社会学部						0.99		同上	
社会学科	4	173	—	683	学士（社会学）	1.00	昭和33年度		令和4年度入学定員増（3人）
現代文化学科	4	173	—	683	学士（社会学）	0.99	平成14年度		令和4年度入学定員増（3人）
メディア社会学科	4	173	—	683	学士（社会学）	0.98	平成18年度		令和4年度入学定員増（3人）
法学部						0.98		同上	
法学科	4	360	—	1440	学士（法学）	0.93	昭和34年度		
政治学科	4	110	—	440	学士（政治学）	1.06	平成8年度		
国際ビジネス法学科	4	115	—	460	学士（法学）	1.04	昭和63年度		
観光学部						0.98		埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
観光学科	4	195	—	780	学士（観光学）	0.99	平成10年度		
交流文化学科	4	175	—	700	学士（観光学）	0.97	平成18年度		
コミュニティ福祉学部						0.97		同上	
福祉学科	4	154	—	616	学士（コミュニティ福祉学）	0.98	平成18年度		
コミュニティ政策学科	4	154	—	616	学士（コミュニティ福祉学）	0.96	平成18年度		
スポーツウェルネス学科	4	110	—	440	学士（スポーツウェルネス学）	0.97	平成20年度		
経営学部						0.97		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
経営学科	4	230	—	920	学士（経営学）	1.00	平成18年度		
国際経営学科	4	155	—	620	学士（経営学）	0.93	平成18年度		
現代心理学部						0.98		埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
心理学科	4	143	—	572	学士（心理学）	0.98	平成18年度		
映像身体学科	4	176	—	704	学士（映像身体学）	0.98	平成18年度		
異文化コミュニケーション学部						1.01		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
異文化コミュニケーション学科	4	145	—	580	学士（異文化コミュニケーション学）	1.01	平成20年度		

既設大学等の状況	文学研究科								同上
	英米文学専攻(M)	2	18	—	36	修士(文学)	0.19	昭和26年度	
	英米文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	昭和28年度	
	史学専攻(M)	2	15	—	30	修士(文学)	0.50	昭和33年度	
	史学専攻(D)	3	6	—	18	博士(文学)	0.49	昭和51年度	
	教育学専攻(M)	2	10	—	20	修士(教育学)	0.55	昭和44年度	
	教育学専攻(D)	3	3	—	9	博士(教育学)	0.66	昭和47年度	
	日本文学専攻(M)	2	20	—	40	修士(文学)	0.37	昭和35年度	
	日本文学専攻(D)	3	8	—	24	博士(文学)	0.29	昭和37年度	
	フランス文学専攻(M)	2	8	—	16	修士(文学)	0.25	昭和40年度	
	フランス文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和42年度	
	ドイツ文学専攻(M)	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和42年度	
	ドイツ文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	昭和44年度	
	比較文明学専攻(M)	2	10	—	20	修士(比較文明学)	0.25	平成10年度	
	比較文明学専攻(D)	3	5	—	15	博士(比較文明学)	0.33	平成12年度	
	超域文化学専攻(M)	2	5	—	10	修士(文学)	0.10	昭和42年度	
	超域文化学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和44年度	
	経済学研究科								同上
	経済学専攻(M)	2	40	—	80	修士(経済学) 修士(会計学)	0.67	昭和26年度	
	経済学専攻(D)	3	10	—	30	博士(経済学) 博士(会計学)	0.16	昭和38年度	
	理学研究科								同上
	物理学専攻(M)	2	20	—	40	修士(理学)	0.92	昭和28年度	
	物理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.58	昭和30年度	
	化学専攻(M)	2	20	—	40	修士(理学)	0.92	昭和29年度	
	化学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.16	昭和37年度	
	数学専攻(M)	2	5	—	10	修士(理学)	0.50	昭和30年度	
数学専攻(D)	3	3	—	9	博士(理学)	0.11	昭和37年度		
生命理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(理学)	0.90	平成8年度		
生命理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.25	平成10年度		
社会学研究科								同上	
社会学専攻(M)	2	20	—	40	修士(社会学)	0.97	平成2年度		
社会学専攻(D)	3	10	—	30	博士(社会学)	0.33	平成9年度		

法学研究科												同上
法学政治学専攻(M)	2	20	—	40	修士(法学) 修士(政治学)	0.35	平成18年度					
法学政治学専攻(D)	3	10	—	30	博士(法学) 博士(政治学)	0.06	平成18年度					
観光学研究科												埼玉県新座市北野一丁目2番26号
観光学専攻(M)	2	20	—	40	修士(観光学)	0.60	平成10年度					
観光学専攻(D)	3	8	—	24	博士(観光学)	0.16	平成10年度					
コミュニティ福祉学研究科												同上
コミュニティ福祉学専攻(M)	2	25	—	50	修士(コミュニティ福祉学) 修士(スポーツマネジメント学)	0.38	平成18年度					
コミュニティ福祉学専攻(D)	3	5	—	15	博士(コミュニティ福祉学) 博士(スポーツマネジメント学)	0.46	平成16年度					
ビジネスデザイン研究科												東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
ビジネスデザイン専攻(M)	2	90	—	180	修士(経営管理学)	1.03	平成14年度					
ビジネスデザイン専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営管理学)	0.60	平成19年度					
21世紀社会デザイン研究科												同上
比較組織ネットワーク学専攻(M)	2	50	—	100	修士(社会デザイン学) 修士(公共・社会デザイン学)	0.83	平成14年度					
比較組織ネットワーク学専攻(D)	3	5	—	15	博士(社会デザイン学)	0.13	平成19年度					
異文化コミュニケーション研究科												同上
異文化コミュニケーション専攻(M)	2	20	—	40	修士(異文化コミュニケーション学)	0.62	平成14年度					
異文化コミュニケーション専攻(D)	3	5	—	15	博士(異文化コミュニケーション学)	0.40	平成16年度					
経営学研究科												同上
経営学専攻(M)	2	10	—	20	修士(経営学)	2.05	平成18年度					
経営学専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営学)	0.40	平成18年度					
国際経営学専攻(M)	2	50	—	100	修士(国際経営学) 修士(公共経営学)	0.70	平成23年度					
現代心理学研究科												埼玉県新座市北野一丁目2番26号
心理学専攻(M)	2	10	—	20	修士(心理学)	0.15	平成18年度					
心理学専攻(D)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	平成18年度					
臨床心理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(臨床心理学)	0.93	平成18年度					
臨床心理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(臨床心理学)	0.16	平成18年度					
映像身体学専攻(M)	2	15	—	30	修士(映像身体学)	0.29	平成20年度					
映像身体学専攻(D)	3	4	—	12	博士(映像身体学)	0.00	平成22年度					

キリスト教学研究科								東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
キリスト教学専攻(M)	2	10	—	20	修士(神学) 修士(文学) 修士(実践神学)	0.70	平成21年度	
キリスト教学専攻(D)	3	5	—	15	博士(神学) 博士(文学)	0.13	平成21年度	
人工知能科学研究科								同上
人工知能科学専攻(M)	2	63	—	126	修士(人工知能科学)	1.05	令和2年度	
人工知能科学専攻(D)	3	8	—	8	博士(人工知能科学)	—	令和4年度	
附属施設の概要	該当なし							

教育課程等の概要															
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	研究基礎	1前	2			○			10	2					オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0				10	2	0	0	0		
	研究指導1	1後	2				○		10	2					
	研究指導2	2前	2				○		10	2					
	研究指導3	2後	2				○		10	2					
小計(3科目)	—	6	0	0				10	2	0	0	0			
選択科目	スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)	1・2前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)	1・2後		2		○				1					
	スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)	1・2前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究8(健康心理学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)	1・2前		2		○				1					
	スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)	1・2前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)	1・2前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)	1・2後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)	1・2後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)	1・2前		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)	1・2後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)	1・2後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究17(アダプテッド・スポーツ)	1・2前		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)	1・2後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究19(環境教育)	1・2後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究20(スポーツマンシップ、スポーツ産業)	1・2前		2		○									兼1
	小計(20科目)	—	0	40	0				10	2	0	0	0		兼8
合計(24科目)		—	8	40	0				10	2	0	0	0	兼8	
学位又は称号	修士(スポーツウエルネス学)		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目から8単位、選択科目から22単位以上を修得することに加え、さらに修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対し、修士の学位を授与する。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			14週						
						1時限の授業時間			100分						

教育課程等の概要															
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導	(研究指導)	—	—			—			10	1					
	小計（一科目）	—	—			—			10	1	0	0	0		—
選択科目	スポーツウエルネス研究1（スポーツ社会学）	1・2・3前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究2（野外教育、環境教育）	1・2・3後		2		○				1					
	スポーツウエルネス研究3（トレーニング科学、コーチング）	1・2・3前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究4（環境生理学、神経科学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究5（ウエルネスジェンダー学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究6（スポーツ栄養学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究7（スポーツ医学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究8（健康心理学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究9（バイオメカニクス）	1・2・3前		2		○				1					
	スポーツウエルネス研究10（スポーツ・運動心理学）	1・2・3前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究11（スポーツ方法学）	1・2・3前		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究12（分子細胞生物学）	1・2・3後		2		○			1						
	スポーツウエルネス研究13（スポーツマネジメント）	1・2・3後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究14（トレーナー科学）	1・2・3前		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究15（データサイエンス）	1・2・3後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究16（ウエルネス科学）	1・2・3後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究17（アダプテッド・スポーツ）	1・2・3前		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究18（スポーツメディア）	1・2・3後		2		○									兼1
	スポーツウエルネス研究19（環境教育）	1・2・3後		2		○									兼1
小計（19科目）		—	0	38	0	—			10	2	0	0	0	兼7	—
合計（19科目）		—	0	38	0	—			10	2	0	0	0	兼7	—
学位又は称号	博士（スポーツウエルネス学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
博士課程後期課程に3年以上在学し、選択科目を6単位以上を修得し、かつ学位論文作成等に対する指導（研究指導）を受け、中間報告等により途中経過の確認の後、博士論文を提出しその審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。						1 学年の学期区分				2期					
						1 学期の授業期間				14週					
						1 時限の授業時間				100分					

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	基礎科目 研究基礎	<p>（概要）研究テーマの確定、指導教員選択に向けての導入期科目。研究倫理、統計手法、レジュメ作成方法、資料検索方法、論文作成方法、テーマ選定、研究アプローチ等、研究する上での基礎的研究手法を学ぶ。スポーツに関わる臨床・実証研究を行う上で必須となる調査方法論に関する文献講読とともに、受講生の研究報告を行う。修士論文作成に向けて、受講者の研究関心を批判的に検討し、その研究枠組み（research design）を確立させることを目的とする。授業は、①調査方法論に関するテキストまたは論文の輪読、②受講生による研究構想報告と先行研究の報告、③担当講師の講義（必要に応じて）から成る。各指導教員の研究テーマは次の通りである。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>① 沼澤 秀雄／1回 研究分野：トレーニング科学、コーチング スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読して、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。</p> <p>② 安松 幹展／2回 まとめ 研究分野：スポーツ方法学 スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。</p> <p>③ 石渡 貴之／1回 研究分野：環境生理学、神経科学 環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。</p> <p>④ 大石 和男／1回 研究分野：健康心理学 受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたりより広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。</p> <p>⑤ 加藤 晴康／2回 ガイダンスおよび研究倫理について 研究分野：スポーツ医学 スポーツ医学とは、医師など医療従事者だけのものではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。運動器に関連するスポーツ医学を基盤に、神経筋における研究やスポーツ外傷・障害を学ぶ。</p> <p>⑥ 川端 雅人／1回 研究分野：スポーツ・運動心理学、動機付け スポーツ・運動・教育場面において、やる気やパフォーマンスの向上、または行動変容を促す手法に関する論文を系統的に吟味し、それらの手法の有効性を量的に検証する方法（メタ分析）を習得する。</p> <p>⑦ 佐野 信子／1回 研究分野：スポーツジェンダー学 ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修 科目	基礎 科目	<p>(⑧ 杉浦 克己/1回) 研究分野：スポーツ栄養学 運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、さらに栄養教育の理論と応用についても学ぶ。</p> <p>(⑨ 舘川 宏之/1回) 研究分野：分子細胞生物学 胎内で、受精した細胞が細胞分裂を繰り返し、人が形成されていく。細胞生物学や遺伝子工学の知識を持つことより、このような生命の神秘的なメカニズムを理解することができる。これにより、とても広い視野でウエルネスを考え、ウエルネスに関連する課題を探究できる基礎を学ぶ。</p> <p>(⑩ 松尾 哲矢/1回) 研究分野：スポーツ社会学 多角的な角度からオリンピック・パラリンピックの意義と意味、その果たしてきた役割、これからのオリンピック・パラリンピックの可能性と課題を考究する。</p> <p>(⑪ 石井 秀幸/1回) 研究分野：バイオメカニクス スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス(生体力学)分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。</p> <p>(⑫ 竈二 正彦/1回) 研究分野：野外教育、環境教育 自然体験活動が、人の心・体・社会性・スピリチュアリティ等に及ぼす影響に関する国内外の論文を読み、ウエルネスや環境問題に対する意識の向上との関係について理解を深める。</p>	オムニバス方式
必修 科目	演習 科目	<p>1年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導1が開始される。以後、2年次修了までの期間を半期ごとに、研究指導2、研究指導3と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導1は、1年次秋学期の科目であり、研究テーマの設定ならびに研究方法の選定を主たる内容として指導が行われる。</p> <p>各教員の主な研究テーマ・領域は以下に示した通りである。</p> <p>(① 沼澤秀雄) トレーニング科学、コーチング (② 安松幹展) スポーツ方法学 (③ 石渡貴之) 環境生理学、神経科学 (④ 大石和男) 健康心理学 (⑤ 加藤晴康) スポーツ医学 (⑥ 川端雅人) スポーツ・運動心理学、動機付け (⑦ 佐野信子) ウエルネスジェンダー学 (⑧ 杉浦克己) スポーツ栄養学 (⑨ 舘川宏之) 分子細胞生物学 (⑩ 松尾哲矢) スポーツ社会学 (⑪ 石井秀幸) バイオメカニクス (⑫ 竈二正彦) 野外教育、環境教育</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 演習科目	研究指導2	<p>1年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導1が開始される。以後、2年次修了までの期間を半期ごとに、研究指導2、研究指導3と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導2は、主として先行研究の資料収集、および論文の骨子作りの指導を行う。</p> <p>各教員の主な研究テーマ・領域は以下に示した通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> (① 沼澤秀雄) トレーニング科学、コーチング (② 安松幹展) スポーツ方法学 (③ 石渡貴之) 環境生理学、神経科学 (④ 大石和男) 健康心理学 (⑤ 加藤晴康) スポーツ医学 (⑥ 川端雅人) スポーツ・運動心理学、動機付け (⑦ 佐野信子) ウエルネスジェンダー学 (⑧ 杉浦克己) スポーツ栄養学 (⑨ 舘川宏之) 分子細胞生物学 (⑩ 松尾哲矢) スポーツ社会学 (⑪ 石井秀幸) バイオメカニクス (⑫ 奇二正彦) 野外教育、環境教育 	
	研究指導3	<p>1年次秋学期に指導教員を定めて行う研究指導1が開始される。以後、2年次修了までの期間を半期ごとに、研究指導2、研究指導3と分けて、段階的に進める。研究テーマに関する基礎文献および先行研究のレビューを前提に、自らの修士論文執筆の基本的枠組みの構想の方法や論文の論理的構成の方法などを身につけながら、研究テーマの設定から研究の完成に至るプロセスを進行させる。研究指導3では、研究指導1・2の学修をもとに、実際の修士論文の執筆をめぐって指導を行う。</p> <p>各教員の主な研究テーマ・領域は以下に示した通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> (① 沼澤秀雄) トレーニング科学、コーチング (② 安松幹展) スポーツ方法学 (③ 石渡貴之) 環境生理学、神経科学 (④ 大石和男) 健康心理学 (⑤ 加藤晴康) スポーツ医学 (⑥ 川端雅人) スポーツ・運動心理学、動機付け (⑦ 佐野信子) ウエルネスジェンダー学 (⑧ 杉浦克己) スポーツ栄養学 (⑨ 舘川宏之) 分子細胞生物学 (⑩ 松尾哲矢) スポーツ社会学 (⑪ 石井秀幸) バイオメカニクス (⑫ 奇二正彦) 野外教育、環境教育 	
選択科目	スポーツウエルネス研究1 (スポーツ社会学)	<p>幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。</p> <p>研究分野：スポーツ社会学</p> <p>オリンピック・パラリンピックは、時代の経済的・政治的・社会的状況を深く反映した社会現象である。本授業では、多角的な角度からオリンピック・パラリンピックに関する文献を講読・議論するなかで、オリンピック・パラリンピックの意義と意味、その果たしてきた役割、これからのオリンピック・パラリンピックの可能性と課題を考究する。本授業では、「商業主義」「スポーツと政治」「人種問題」「メディア」「ナショナリズム」等の観点から、オリンピック・パラリンピックに関する文献を講読・検討する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究2 (野外教育、環境教育)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：野外教育、環境教育 人と自然が共生する社会の構築をテーマとし、環境問題や環境思想を理解し、人のウエルネスを向上させる自然体験や、持続可能な社会づくりに貢献する環境教育プログラムの探究を目標とする。地球温暖化に伴う気候変動や生物多様性の損失など、深刻化しているグローバルな環境問題の現状を確認すると共に、環境問題と共に思想的深まりを見せた環境思想について理解する。さらに、様々な自然体験活動や環境教育プログラムが、人の心理や身体、社会性、スピリチュアリティ等に与える影響について学ぶ。	
	スポーツウエルネス研究3 (トレーニング科学、コーチング)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：トレーニング科学、コーチング スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読して、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。授業の初めはスポーツに関するトピックスを紹介して、コーチングやトレーニングについてディスカッションする。また、スポーツ指導に関わっている受講生は週末に行われた試合における指導実践について報告する。授業の流れとしては、テキストの内容の中から、興味がある章を決めて、その中にあるコーチングに関する文献を読み、トレーニング科学を概観する。その文献について、20分程度でプレゼンテーションを行うことを前提にして資料としてまとめ内容を発表する。	
	スポーツウエルネス研究4 (環境生理学、神経科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：環境生理学、神経科学 環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。授業では英語の環境生理学そして神経科学の文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。	
	スポーツウエルネス研究5 (ウエルネスジェンダー学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：ウエルネスジェンダー学 ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。現代社会にはウエルネスをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが必要不可欠。文献講読をし、議論をする中でウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究 6 (スポーツ栄養学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツ栄養学 運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、さらに栄養教育の理論と応用についても学ぶ。欧米の学部レベルの英語の教科書あるいは英語の研究論文の講読を通して、スポーツと栄養の関係をより深く学び、スポーツ現場で直面する実践的な課題についても議論していく。同時に海外のスポーツ栄養学の研究と普及の現状についても解説していく。	
	スポーツウエルネス研究 7 (スポーツ医学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツ医学 スポーツ医学とは、医師など医療従事者が行う学問だけではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。医学研究をベースに、さまざまな研究の問題点や研究プランニングを学ぶことを目標とする。受講者が任意のトピックスを選択し、バックグラウンドの説明のため、関連した研究論文（英文）の紹介を受講者が順番に行う。また、このトピックスに基づき、検討可能な研究テーマを作成し、議論する。	
	スポーツウエルネス研究 8 (健康心理学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：健康心理学 本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたりより広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。各専門分野においては、それぞれ継承されてきた手法を用いて、ある枠の中で研究がなされるのが一般的である。しかしながら、異分野の視点を導入することで、新たな発見や思考方法を見出すことも少なくない。本講義では、受講者のそれぞれの研究テーマが心理学的事実とどのように関連するのか、あるいはどのような意義を有するのかについて、討論を通して学習する。内容は、講者の興味により臨機応変に対応する。	
	スポーツウエルネス研究 9 (バイオメカニクス)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：バイオメカニクス スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス（生体力学）分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。バイオメカニクス分野の国際学術雑誌に掲載されている研究論文の抄読を行い、世界水準の研究について学ぶ。また、バイオメカニクスの研究手法に関する講義に加え、実際にモーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測、Excelおよびプログラミングによる分析を行い、テクノロジーを活用した計測・分析手法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究10 (スポーツ・運動心理学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツ・運動心理学 スポーツ・運動心理学に関する研究のシステマティックレビューとメタアナリシスを行う。本コースでは、システマティック・レビューやメタアナリシスを適切に行うための基礎的な知識と技術を習得することを目的としている。受講生は、スポーツ・運動心理学の分野において、個人のモチベーションやパフォーマンスを高めたり、行動を変えたりするための心理学的手法や介入アプローチを身に付けることが求められる。また、興味のある手法や介入方法の有効性について、システマティック・レビューやメタアナリシスに取り組む。	
	スポーツウエルネス研究11 (スポーツ方法学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツ方法学 スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。	
	スポーツウエルネス研究12 (分子細胞生物学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：分子細胞生物学 生命を細胞や遺伝子からの視点を持つことができ、ウエルネスを分子生物学的に理解する。分子生物学的な観点からウエルネスを考察することを柱として、研究テーマを構築する方法を学ぶ。また、興味あるテーマから、参考論文を渉猟するためのKey Wordsを作成し、渉猟した参考論文をまとめてプレゼンテーションすることで、研究をするための基礎を身につける。	
	スポーツウエルネス研究13 (スポーツマネジメント)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツマネジメント グローバルな視点からスポーツのマネジメントを考える。欧米諸国を中心とした海外のスポーツ環境（スポーツ組織）とそのマネジメント（手法）を日本と比較し、日本的スポーツマネジメントの特徴や課題について学ぶとともに、スポーツマネジメントの基礎理論および国際的課題について理解を深める。本授業では、国内外の様々なスポーツ現場におけるマネジメントの実践例を取り上げ、グローバルな視点から日本的スポーツマネジメントの現状や課題について検討する。さらに、スポーツマネジメントの基礎理論を解説するとともに、討論を通してスポーツマネジメントの国際的課題について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究14 (トレーナー科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：トレーナー科学 健康やスポーツに対する関心が高まる現在において、スポーツ現場においても、アスレティックトレーナーに求められるものも広がりを見せている。そのような様々な需要に応えるため、エビデンスに基づいたアプローチが大切であり、スポーツ現場における研究手法について解説する。また、東日本大震災を経験した日本において、苦難の中でも人を尊重し思いやる気持ち、感謝することの重要性が再認識されたように、スポーツの世界だけでなく、組織の中で、働いていくには、上記のような周囲の人達とのお互いを尊重し合う姿勢を忘れてはならない。スポーツ現場において用いられる技術だけでなく、必要とされるヒューマニティーについても紹介する。	
	スポーツウエルネス研究15 (データサイエンス)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：データサイエンス 量的なデータの収集方法と解析方法、及び解析プログラムの作成方法を理解する。スポーツウエルネスの研究分野における、データ分析の理論と分析実践例の解説から、主に量的なデータの収集、格納、加工、および解析方法を学び、大学院における各自の研究内容に必要な、解析プログラムの作成を実践する。	
	スポーツウエルネス研究16 (ウエルネス科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：ウエルネス科学 ウエルネスとは何かを理解し、人間が生きることの意味について、様々な題材を参考として考察する。ウエルネスとは個人が身を置いている特定の環境の中にあって、その個人が持っている潜在能力を最大限に引き出すための総合的な働きかけのことである。ウエルネスの実践にあたっては、個人を取り巻くコミュニティや環境が重要な関わりをもち、“生きがい感”に根ざした充実した生き方に対する感受性こそが、大切な役割を担う。この授業ではウエルネスを構成する要素、①生きがい感、②健康観、③生活環境の基本的考え方について学び、“自然環境と人間の在り方”、人の生き方の多様性”などの点について議論する。	
	スポーツウエルネス研究17 (アダプテッド・スポーツ)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：アダプテッド・スポーツ 障がいのある人や加齢により身体的虚弱になった人にとって、身体運動はどのような意義をもつのかという問いに対して、簡単な研究的演習を通して、履修された人と共に取り組み、いくつかの指標を確認することを目標とする。身体の一部に障がいがある人たち（虚弱高齢者等を含む）にとって身体運動がどのような意味をもつのか、実際の運動プログラムにはどのようなものがあるのかを検討する。また現在のパラリンピックなどの障がい者スポーツの現状と課題についても、履修生の意見を聞きながら、演習的に研究の内容を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究18 (スポーツメディア)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツメディア いま、スポーツ界で起きていることを題材に取り上げ、議論を深める。「インテグリティとはなにか」「ガバナンスとコンプライアンス」「オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップなど巨大イベントのありようとは」いまに焦点をあててスポーツへの理解を深める。ひとつの題材を取り上げ、講義と議論で問題を深掘りする。受講者が興味をもつテーマでプレゼンを行い、全員で議論し、問題を掘り下げる。	
	スポーツウエルネス研究19 (環境教育)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：環境教育 環境共生型社会の実現を“口先”だけのものにならないために、私たちが日々行っている暮らしの選択のありようを、さまざまな実相を持っている「生物多様性」の視点から振り返り、人間活動と環境の現状、そして理想的な社会システムについて考察する。とかく縁遠いと思われがちな「生物多様性」は、じつはとても身近な問題であり、その未来は私たちの暮らしの選択にも深くかかわっている。さまざまな事例を題材に、自然環境に配慮することの真の意味について議論する。	
	スポーツウエルネス研究20 (スポーツマンシップ、スポーツ産業)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。 研究分野：スポーツマンシップ、スポーツ産業 スポーツの本質的価値ともいべきスポーツマンシップについて哲学的に理解するとともに、スポーツを活用したよりよき社会づくりを実現する論理的思考力と実践力を身につける。「スポーツマンシップ」について理論的に明らかにするとともに、その実践によってよき社会づくりに貢献するための手法を含めて検討する。スポーツの意義・価値、哲学・倫理的な分析、キャリア・リーダーシップ、教育・制度設計・社会貢献・政策など多角的な視点から、スポーツのあり方・捉え方・あるべき姿・活用方法、社会的役割・機能、発展可能性などを考え、より深く追求する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	(研究指導)	<p>それぞれの学生の研究テーマ・領域ごとに、担当の研究指導教員が研究指導補助教員の補助を受けながら、研究テーマの設定から先行研究レビュー、研究計画書の作成、実験の実施、データの分析・考察など、博士学位論文完成までの研究指導を行う。</p> <p>1年次は学生がすべての潜在的話題をブレインストーミングすることを支援し、必要に応じて既存のデータ・ソースまたは既存のデータに基づいた可能性のあるテーマを提供する。さらに①文献検索を行い文献リスト作成、それらの吟味 ②先行研究レビュー、学生の興味、実行可能性を踏まえて最終的に研究トピックの決定③研究計画書作成、研究計画発表の準備④すべての図表を加えた博士論文の構造の記述などを行う。</p> <p>2年次は①実験実施、データ収集、データ入力、データクリーニングの完了②詳細データ分析計画の策定③データ分析の開始④分析結果の解釈、必要に応じてデータ分析計画の修正、完全なデータ分析⑤1年次に準備した論文構造を利用して、必要なすべてのテキスト/表/図を追加し、最初の論文草案の作成⑥関連分野雑誌への投稿原稿作成と投稿などを行う。</p> <p>3年次には必要に応じて、追加実験やデータを改訂して再分析し、原稿を雑誌に再提出する。また、必要な改訂後に博士論文を書き上げて提出する。</p> <p>【主な研究テーマ・領域】 <研究指導教員> ③ 石渡貴之) 環境生理学、神経科学 ④ 加藤晴康) スポーツ医学 ⑧ 舘川宏之) 分子細胞生物学 ⑨ 松尾哲矢) スポーツ社会学 ⑩ 安松幹展) スポーツ方法学 <研究指導補助教員> ① 沼澤秀雄) トレーニング科学、コーチング ② 大石和男) 健康心理学 ⑤ 川端雅人) スポーツ・運動心理学、動機付け ⑥ 佐野信子) ウエルネスジェンダー学 ⑦ 杉浦克己) スポーツ栄養学 ⑪ 石井秀幸) バイオメカニクス</p>	
選択科目	スポーツウエルネス研究1 (スポーツ社会学)	<p>幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。</p> <p>研究分野：スポーツ社会学 オリンピック・パラリンピックは、時代の経済的・政治的・社会的状況を深く反映した社会現象である。本授業では、多角的な角度からオリンピック・パラリンピックに関する文献を講読・議論するなかで、オリンピック・パラリンピックの意義と意味、その果たしてきた役割、これからのオリンピック・パラリンピックの可能性と課題を考究する。本授業では、「商業主義」「スポーツと政治」「人種問題」「メディア」「ナショナリズム」等の観点から、オリンピック・パラリンピックに関する文献を講読・検討する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究2 (野外教育、環境教育)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：野外教育、環境教育 人と自然が共生する社会の構築をテーマとし、環境問題や環境思想を理解し、人のウエルネスを向上させる自然体験や、持続可能な社会づくりに貢献する環境教育プログラムの探究を目標とする。地球温暖化に伴う気候変動や生物多様性の損失など、深刻化しているグローバルな環境問題の現状を確認すると共に、環境問題と共に思想的深まりを見せた環境思想について理解する。さらに、様々な自然体験活動や環境教育プログラムが、人の心理や身体、社会性、スピリチュアリティ等に与える影響について学ぶ。	
	スポーツウエルネス研究3 (トレーニング科学、コーチング)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：トレーニング科学、コーチング スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読し、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。授業の初めはスポーツに関するトピックスを紹介して、コーチングやトレーニングについてディスカッションする。また、スポーツ指導に関わっている受講生は週末に行われた試合における指導実践について報告する。授業の流れとしては、テキストの内容の中から、興味がある章を決めて、その中にあるコーチングに関する文献を読み、コーチング科学を概観する。その文献について、20分程度でプレゼンテーションを行うことを前提にして資料としてまとめ内容を発表する。	
	スポーツウエルネス研究4 (環境生理学、神経科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：環境生理学、神経科学 環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。授業では英語の環境生理学そして神経科学の文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。	
	スポーツウエルネス研究5 (ウエルネスジェンダー学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：ウエルネスジェンダー学 ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。現代社会にはウエルネスをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが必要不可欠。文献講読をし、議論をする中でウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究 6 (スポーツ栄養学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツ栄養学 運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、さらに栄養教育の理論と応用についても学ぶ。欧米の学部レベルの英語の教科書あるいは英語の研究論文の講読を通して、スポーツと栄養の関係をより深く学び、スポーツ現場で直面する実践的な課題についても議論していく。同時に海外のスポーツ栄養学の研究と普及の現状についても解説していく。	
	スポーツウエルネス研究 7 (スポーツ医学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツ医学 スポーツ医学とは、医師など医療従事者が行う学問だけではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。医学研究をベースに、さまざまな研究の問題点や研究プランニングを学ぶことを目標とする。受講者が任意のトピックスを選択し、バックグラウンドの説明のため、関連した研究論文（英文）の紹介を受講者が順番に行う。また、このトピックスに基づき、検討可能な研究テーマを作成し、議論する。	
	スポーツウエルネス研究 8 (健康心理学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：健康心理学 本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたりより広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。各専門分野においては、それぞれ継承されてきた手法を用いて、ある枠の中で研究がなされるのが一般的である。しかしながら、異分野の視点を導入することで、新たな発見や思考方法を見出すことも少なくない。本講義では、受講者のそれぞれの研究テーマが心理学的事実とどのように関連するのか、あるいはどのような意義を有するのかについて、討論を通して学習する。内容は、講者の興味により臨機応変に対応する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究9 (バイオメカニクス)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：バイオメカニクス スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス(生体力学)分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。バイオメカニクス分野の国際学術雑誌に掲載されている研究論文の抄読を行い、世界水準の研究について学ぶ。また、バイオメカニクスの研究手法に関する講義に加え、実際にモーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測、Excelおよびプログラミングによる分析を行い、テクノロジーを活用した計測・分析手法を習得する。	
	スポーツウエルネス研究10 (スポーツ・運動心理学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツ・運動心理学 スポーツ・運動心理学に関する研究のシステマティックレビューとメタアナリシスを行う。本コースでは、システマティック・レビューやメタアナリシスを適切に行うための基礎的な知識と技術を習得することを目的としている。受講生は、スポーツ・運動心理学の分野において、個人のモチベーションやパフォーマンスを高めたり、行動を変えたりするための心理学的手法や介入アプローチを身に付けることが求められる。また、興味のある手法や介入方法の有効性について、システマティック・レビューやメタアナリシスに取り組む。	
	スポーツウエルネス研究11 (スポーツ方法学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツ方法学 スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。	
	スポーツウエルネス研究12 (分子細胞生物学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：分子細胞生物学 生命を細胞や遺伝子からの視点を持つことができ、ウエルネスを分子生物学的に理解する。分子生物学的な観点からウエルネスを考察することを柱として、研究テーマを構築する方法を学ぶ。また、興味あるテーマから、参考論文を渉猟するためのKey Wordsを作成し、渉猟した参考論文をまとめてプレゼンテーションすることで、研究をするための基礎を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究13 (スポーツマネジメント)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツマネジメント グローバルな視点からスポーツのマネジメントを考える。欧米諸国を中心とした海外のスポーツ環境（スポーツ組織）とそのマネジメント（手法）を日本と比較し、日本的スポーツマネジメントの特徴や課題について学ぶとともに、スポーツマネジメントの基礎理論および国際的課題について理解を深める。本授業では、国内外の様々なスポーツ現場におけるマネジメントの実践例を取り上げ、グローバルな視点から日本的スポーツマネジメントの現状や課題について検討する。さらに、スポーツマネジメントの基礎理論を解説するとともに、討論を通してスポーツマネジメントの国際的課題について学習する。	
	スポーツウエルネス研究14 (トレーナー科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：トレーナー科学 健康やスポーツに対する関心が高まる現在において、スポーツ現場においても、アスレティックトレーナーに求められるものも広がりを見せている。そのような様々な需要に応えるため、エビデンスに基づいたアプローチが大切であり、スポーツ現場における研究手法について解説する。また、東日本大震災を経験した日本において、苦難の中でも人を尊重し思いやる気持ち、感謝することの重要性が再認識されたように、スポーツの世界だけでなく、組織の中で、働いていくには、上記のような周囲の人達とのお互いを尊重し合う姿勢を忘れてはならない。スポーツ現場において用いられる技術だけでなく、必要とされるヒューマニティーについても紹介する。	
	スポーツウエルネス研究15 (データサイエンス)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：データサイエンス 量的なデータの収集方法と解析方法、及び解析プログラムの作成方法を理解する。スポーツウエルネスの研究分野における、データ分析の理論と分析実践例の解説から、主に量的なデータの収集、格納、加工、および解析方法を学び、大学院における各自の研究内容に必要な、解析プログラムの作成を実践する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究16 (ウエルネス科学)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：ウエルネス科学 ウエルネスとは何かを理解し、人間が生きることの意味について、様々な題材を参考として考察する。ウエルネスとは個人が身を置いている特定の環境の中にあつて、その個人が持っている潜在能力を最大限に引き出すための総合的な働きかけのことである。ウエルネスの実践にあたっては、個人を取り巻くコミュニティや環境が重要な関わりをもち、“生きがい感”に根ざした充実した生き方に対する感受性こそが、大切な役割を担う。この授業ではウエルネスを構成する要素、①生きがい感、②健康観、③生活環境の基本的考え方について学び、“自然環境と人間の在り方”、人の生き方の多様性”などの点について議論する。	
	スポーツウエルネス研究17 (アダプテッド・スポーツ)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：アダプテッド・スポーツ 障がいのある人や加齢により身体的虚弱になった人にとって、身体運動はどのような意義をもつのかという問いに対して、簡単な研究的演習を通して、履修された人と共に取り組み、いくつかの指標を確認することを目標とする。身体の一部に障がいがある人たち(虚弱高齢者等を含む)にとって身体運動がどのような意味をもつか、実際の運動プログラムにはどのようなものがあるのかを検討する。また現在のパラリンピックなどの障がい者スポーツの現状と課題についても、履修生の意見を聞きながら、演習的に研究の内容を検討する。	
	スポーツウエルネス研究18 (スポーツメディア)	幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。 研究分野：スポーツメディア いま、スポーツ界で起きていることを題材に取り上げ、議論を深める。「インテグリティとはなにか」「ガバナンスとコンプライアンス」「オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップなど巨大イベントのありようとは」いまに焦点をあててスポーツへの理解を深める。ひとつの題材を取り上げ、講義と議論で問題を深掘りする。受講者が興味をもつテーマでプレゼンを行い、全員で議論し、問題を掘り下げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻博士課程後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目	スポーツウエルネス研究19 (環境教育)	<p>幅広い知識に基づく高度な専門性を育成する授業科目。先端的な専門知識や高度な情報収集力の獲得、研究の構想力、そして問題解決能力やプレゼンテーション能力など総合的な研究遂行力を身につける。最終的に博士課程修了後に学術分野での学会や論文発表、あるいは社会でスポーツウエルネス学のプロジェクトを推進するための能力を身につけることを目標とする。</p> <p>研究分野：環境教育</p> <p>環境共生型社会の実現を“口先”だけのものにならないために、私たちが日々行っている暮らしの選択のありようを、さまざまな実相を持っている「生物多様性」の視点から振り返り、人間活動と環境の現状、そして理想的な社会システムについて考察する。とかく縁遠いと思われがちな「生物多様性」は、じつはとても身近な問題であり、その未来は私たちの暮らしの選択にも深くかかわっている。さまざまな事例を題材に、自然環境に配慮することの真の意味について議論する。</p>	

学校法人立教学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

令和5年度

立教大学

立教大学

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	キリスト教学科	50	—	200
	史学科	215	—	860
	教育学科	101	—	404
	文学科	552	—	2,208
経済学部	経済学科	332	—	1,328
	会計ファイナンス学科	176	—	704
	経済政策学科	176	—	704
理学部	数学科	66	—	264
	物理学科	77	—	308
	化学科	77	—	308
	生命理学科	72	—	288
社会学部	社会学科	173	—	692
	現代文化学科	173	—	692
	メディア社会学科	173	—	692
法学部	法学科	360	—	1,440
	政治学科	110	—	440
	国際ビジネス法学科	115	—	460
観光学部	観光学科	195	—	780
	交流文化学科	175	—	700
コミュニティ福祉学部	福祉学科	154	—	616
	コミュニティ政策学科	154	—	616
	スポーツウェルネス学科	110	—	440
経営学部	経営学科	230	—	920
	国際経営学科	155	—	620
現代心理学部	心理学科	143	—	572
	映像身体学科	176	—	704
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	—	580
計		4,635	—	18,540

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	変更の事由
文学部	キリスト教学科	50	—	200	
	史学科	215	—	860	
	教育学科	101	—	404	
	文学科	552	—	2,208	
経済学部	経済学科	332	—	1,328	
	会計ファイナンス学科	176	—	704	
	経済政策学科	176	—	704	
理学部	数学科	66	—	264	
	物理学科	77	—	308	
	化学科	77	—	308	
	生命理学科	72	—	288	
社会学部	社会学科	173	—	692	
	現代文化学科	173	—	692	
	メディア社会学科	173	—	692	
法学部	法学科	360	—	1,440	
	政治学科	110	—	440	
	国際ビジネス法学科	115	—	460	
観光学部	観光学科	195	—	780	
	交流文化学科	175	—	700	
コミュニティ福祉学部	福祉学科	130	—	520	定員変更(△24) ※収定増認可申請予定
	コミュニティ政策学科	220	—	880	定員変更(66) ※収定増認可申請予定
	スポーツウェルネス学科	0	—	0	令和5年4月学生募集停止
経営学部	経営学科	230	—	920	
	国際経営学科	155	—	620	
現代心理学部	心理学科	143	—	572	
	映像身体学科	176	—	704	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	—	580	
スポーツウェルネス学部	スポーツウェルネス学科	230	—	920	学部の設置(届出) ※収定増認可申請予定
計		4,797	—	19,188	

令和4年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	—	36
	英米文学専攻(D)	3	—	9
	史学専攻(M)	15	—	30
	史学専攻(D)	6	—	18
	教育学専攻(M)	10	—	20
	教育学専攻(D)	3	—	9
	日本文学専攻(M)	20	—	40
	日本文学専攻(D)	8	—	24
	フランス文学専攻(M)	8	—	16
	フランス文学専攻(D)	3	—	9
	ドイツ文学専攻(M)	8	—	16
	ドイツ文学専攻(D)	3	—	9
	比較文明学専攻(M)	10	—	20
	比較文明学専攻(D)	5	—	15
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	—	80
	経済学専攻(D)	10	—	30
理学研究科	物理学専攻(M)	20	—	40
	物理学専攻(D)	4	—	12
	化学専攻(M)	20	—	40
	化学専攻(D)	4	—	12
	数学専攻(M)	5	—	10
	数学専攻(D)	3	—	9
	生命理学専攻(M)	15	—	30
	生命理学専攻(D)	4	—	12
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	—	40
	社会学専攻(D)	10	—	30
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	—	40
	法学政治学専攻(D)	10	—	30
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	—	40
	観光学専攻(D)	8	—	24
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻(M)	25	—	50
	コミュニティ福祉学専攻(D)	5	—	15
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻(M)	90	—	180
	ビジネスデザイン専攻(D)	5	—	15

令和5年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科	英米文学専攻(M)	18	—	36	
	英米文学専攻(D)	3	—	9	
	史学専攻(M)	15	—	30	
	史学専攻(D)	6	—	18	
	教育学専攻(M)	10	—	20	
	教育学専攻(D)	3	—	9	
	日本文学専攻(M)	20	—	40	
	日本文学専攻(D)	8	—	24	
	フランス文学専攻(M)	8	—	16	
	フランス文学専攻(D)	3	—	9	
	ドイツ文学専攻(M)	8	—	16	
	ドイツ文学専攻(D)	3	—	9	
	比較文明学専攻(M)	10	—	20	
	比較文明学専攻(D)	5	—	15	
経済学研究科	経済学専攻(M)	40	—	80	
	経済学専攻(D)	5	—	15	定員変更(△5)
理学研究科	物理学専攻(M)	20	—	40	
	物理学専攻(D)	4	—	12	
	化学専攻(M)	20	—	40	
	化学専攻(D)	4	—	12	
	数学専攻(M)	5	—	10	
	数学専攻(D)	3	—	9	
	生命理学専攻(M)	15	—	30	
	生命理学専攻(D)	4	—	12	
社会学研究科	社会学専攻(M)	20	—	40	
	社会学専攻(D)	10	—	30	
法学研究科	法学政治学専攻(M)	20	—	40	
	法学政治学専攻(D)	8	—	24	定員変更(△2)
観光学研究科	観光学専攻(M)	20	—	40	
	観光学専攻(D)	8	—	24	
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻(M)	15	—	30	定員変更(△10)
	コミュニティ福祉学専攻(D)	5	—	15	
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻(M)	90	—	180	
	ビジネスデザイン専攻(D)	5	—	15	

令和4年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20
	経営学専攻(D)	5	—	15
	国際経営学専攻(M)	50	—	100
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20
	心理学専攻(D)	3	—	9
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12
	映像身体学専攻(M)	15	—	30
	映像身体学専攻(D)	4	—	12
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15
人工知能科学研究科	人工知能科学専攻(M)	63	—	126
	人工知能科学専攻(D)	8	—	24
計		748	—	1,632

令和5年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100	
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15	
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40	
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15	
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20	
	経営学専攻(D)	5	—	15	
	国際経営学専攻(M)	50	—	100	
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	
	心理学専攻(D)	3	—	9	
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30	
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12	
	映像身体学専攻(M)	15	—	30	
	映像身体学専攻(D)	4	—	12	
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20	
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15	
人工知能科学研究科	人工知能科学専攻(M)	63	—	126	
	人工知能科学専攻(D)	8	—	24	
	スポーツウエルネス学研究科	10	—	20	研究科の設置 (認可申請)
	スポーツウエルネス学専攻(D)	5	—	15	
計		746	—	1,626	